

第3回医薬患連携情報共有研究会、議論白熱

徳島文理大学香川薬学部 飯原なおみ

第3回医薬患連携情報共有研究会が、平成26年7月13日（日）に香川県薬剤師会朝日町会館（香川県高松市）で約100名の参加のもとで開催された。まず、「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」取組代表者 桐野豊から挨拶があり、その後、徳島文理大学香川薬学部 学部長 宮澤宏による座長のもとで3名の演者によるご講演があった。

公益社団法人高知県薬剤師会 副会長 山下紘一先生からは「高知県お薬手帳電子化事業—事業概要と普及促進活動について—」をご講演くださった。「高知e—お薬手帳電子化事業」の導入の経緯から啓発の実際についての内容で、様々な課題を克服しながら事業を進めてこられた様子についてお話しくださった。今後、各地域で電子お薬手帳に取り組む上で大変参考になるご講演であった。

自民党 IT 戦略特命委員長 平井たくや先生からは「医療 IT 政策の方向性—共通番号制などの課題解決に向けて」をご講演くださった。医療 IT 導入の日本の現状と世界の進捗、平成25年6月に政府が発表した「世界最先端 IT 国家創造宣言」の理念ならびにその実現に向けた各種方策についての内容であった。なかでも、個人番号カードの導入や「サイバーセキュリティ基本法」は、医療 IT の利活用を促進する上で根幹となるものであり、会場の質問の多さからも、これら事項に対する関心の高さがうかがえた。

一般社団法人川崎市薬剤師会 理事 伊藤啓先生からは「個人情報を持たないクラウドシステムによる電子おくすり手帳～川崎市薬剤師会～」をご講演くださった。「電子お薬手帳 harmo（ハルモ）」の参加薬局に対する説明会の様子や広報活動の実際、ならびに、利用者の反響についてお話しくださり、段階的に事業を展開していった様子が説明された。参加者からは取り組みの実際に対する具体的な質問が寄せられ、意見交換がはずんだ。

